

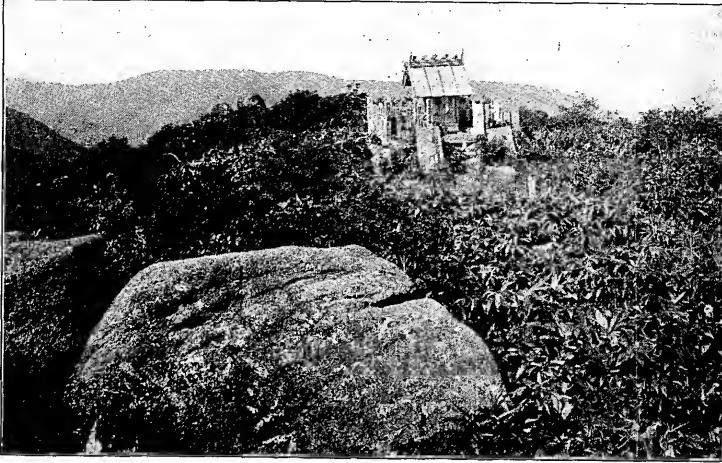
菰野温泉湯の山ノ全景

中央正面ノ山ハ御在所嶽ニハ非ラズ御在所嶽ハ此右方ニ在レドモ此景色ノ中ニハ見エズ
又中央ニ見ユル三角ノ屋根ハ冠峰山三岳寺ノ本堂(舊七尊御堂)ニシテ堂前ニ
はなのきノ大樹一株アリ蓋シ他ヨリ移植セシモノナラン(村田)

○伊藤圭介翁遺墨ノ菰野山草扁額

伊勢四日市 村田吉太郎

本篇ハ嘗テ『史蹟名勝天然記念物』第五卷第十二號及第六卷第二號ニ互リ理
學博士三好學先生ノ御厚意ニ依リ掲載セラレシ者ナレドモ今回更ニ本誌主筆
牧野先生ノ御勸メニ從ヒ増補ノ上再録シタル者ナリ(大正十五年六月四日)
余嘗テ梅村甚太郎氏ノ著『常用救荒飲食界之植物誌』ヲ繕キ故理
學博士男爵伊藤圭介翁ヲ傳ヲ讀ミシニ其一節ニ「翁醫ヲ爲ス
ノ傍絶ヘズ博物學ヲ攻究シ天保三年、同九年信州木曾、戸隠
ニ嘉永五年及ビ安政二年江州伊吹山ニ、安政二年城州諸山、
攝州有馬、勢州朝熊山、志州青峰ニ、同五年勢州菰野山ニ遍
歴採集ス。其菰野山ノ採集品三百餘種ノ品目ハ掲ゲテ杉屋樓
上ニ扁額トナシアリシガ現今ハ杉屋跡ヲ失ヒ復其扁額ヲ見ザ
ルニ至レリ。同山ニ採集スルモノ常ニ之ヲ遺憾トセザルモノ
ナシ。云々」ノ記事アリキ、余ハ如何ニモシテ其扁額ノ所在
ヲ探ラント欲スルコト茲ニ幾星霜、杉屋ナル屋號ノ旅館ハ今
尚菰野湯の山ニ存スレドモ當時ノ杉屋トハ其家系ヲ異ニシ如
何ニ故老等ニ尋ヌト雖モ常ニ五里霧中ノ消息ノミ、然ルニ偶
然ニモ今度此ノ學術上且ツ又タ菰野植物史上唯一ノ記念品タ



上頂嶽在所御

頂上ノ小祠ハ御嶽神社ニシテ其邊ニ生ズル笹ハいふきざさナリ此祠ノ裏手ニテ余先年 *Meteoriella soluta* (Mitt.) S. OKAMURA. 及ヒ *Dolichomitra cymbifolium* BROTH. var. *subintegerrima* S. OKAMURA, n. var. ノ二種ノ蘚類ヲ發見ス (村田)

ル翁自筆ニ係ル扁額ノ所在ヲ知ルヲ得タルハ豈ニ亦一大快事ト謂ハザルベケンヤ

其ハ余ト同郷ニシテ同業タル三重縣伊勢四日市在住ノ藥劑師下里治三郎氏ノ所持スル所タリ、元來氏ハ製藥業ニ熱心ナル士ニシテ植物ノ方面ニハ趣味少キ方ナレバ斯カル貴重ナル翁ノ遺物モ氏ニ取テハ何等ノ價值ナク寧ロ保存ニ困却セラレ居ル狀況ナリ

一日下里氏ト會合ノ際、談偶々植物ノ事ニ及ビタル時偶然ニ此ノ貴重品ノ所在ヲ知ルヲ得タルモノナリ、時恰モ歐洲大戰開始ノ當時ナリキ、其後氏ヲ訪ヒ其ノ偉人ノ手蹟ノ供覽ヲ乞ヒタリ、氏ハ斯カル貴重品ヲ不用什器ト共ニ納屋同様ノ場處ニ煤煙及ビ蜘蛛ノ巢クウニ任セ置カレシハ返ス返スモ遺憾ナカラザリキ、而シテ氏ノ談ニ依レバ、「往年伊藤篤太郎博士(圭翁ノ孫ニ當ル)ニ供覽シ需メニ依リテ撮影セシモ全然文字不明瞭ナリシタメ如何トモナシ難カリシ」ト、其ノ後荏苒歲月ヲ閱シ漸ク寸暇ヲ得テ余ハ此扁額ヲ詳細ニ手寫シタルヲ以テ茲ニ之ヲ公表シ以テ再ビ世ニ出スノ機ヲ得タルヲ喜ブモノナリ

此ノ由來ヲ尋ヌルニ額ノ文中ニ杉屋喜三郎ナル人アリ此レハ翁ノ採集ニ東道タリシ人ニシテ又前記治三郎氏ノ祖父ナリト、治三郎氏ノ生地ハ勢州桑名ニシテ本姓ヲ加藤ト云ヒ當市下里家ニ入婿セラレタル人ナリ即チ此扁額ハ杉屋改革ノ際桑名ノ實家ニ移サレシモノニシテ其ヲ治三郎氏ガ祖父ノ形見トシテ往年當地ニ移サレタルモノナル事判明セリ

〔二〕 菰野山

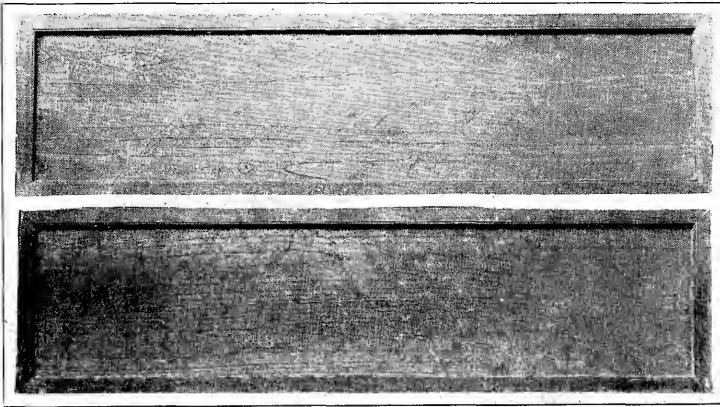
菰野山トハ鈴鹿山脈ノ中央部ニ位スル最高峰御在所嶽ヲ始メ隣接セル鎌ヶ嶽及ビ附近一帯ノ山岳ノ總稱ニシテ地理學上ノ山名ニ非ズシテ植物採集家ノ通稱ナリ

御在所嶽ハ海拔凡四千尺アリテ江勢ノ兩國ニ跨リ山麓三重郡菰野村ニ屬スルヲ以テ斯ク菰野山ノ通稱ヲ得タル者ナリ、此地域一帯ハ閑雅幽邃ニシテ風光明媚、加フルニ人皇四十四代元正天皇ノ御宇、僧淨薫ノ靈夢ニヨリテ發見サレシ溫泉アリテ鹿の湯、又菰野溫泉、一名湯の山溫泉ト稱ス俳人横井也有ノ『うづら衣』ニモ既ニ「薦野の記」トシテ此溫泉ノ紀行見エタリ、且ツ近年「ラヂウム」含有ノ確證ヲ得シ以來浴客四時絶ユル事ナシ、四日市市ヲ距ル西方三里餘ニシテ山麓湯之山驛迄四日市鐵道ノ便アリテ僅カ一時間ヲ要セズ而シテ終點ヨリ二里餘ニシテ御在所嶽ノ頂上ニ達シ得

〔三〕 菰野山植物採集略史

彼ノ風土記ニ「薦生野多異竹」トアル如ク古來植物ノ種類ニ富メルヲ以テ採集ノ士多ク舊クハ飯沼慾齋、伊藤圭介ノ諸翁ヲ始メ三好學博士、山草家曙山前田次郎氏、子爵加藤泰秋氏等枚舉ニ遑アラズ近クハ明治三十九年ニ梅村甚太郎氏ノ講習會アリ降ッテ大正十一年ニハ故理學士安田篤先生ノ採集アリ同十三年八月ニハ牧野富太郎先生ノ講習會開催セラレ採集ノ士年々多キヲ加フルニ至レリ然レドモ今ヤ御在所嶽ハ濫採ノ結果延イテ其草木次第ニ昔日ノ俤ヲ止メザルヲ招致シ從テ村民等モ漸ク保護ノ必要ヲ感ゼシモ時既ニ遅ク如何トモ爲難シ、之

伊藤圭介翁遺墨ノ菰野山草扁額



菰野山草扁額二個（表面）

（縮寫）



同 二個（裏面）

（縮寫）

ニ反シテ隣峰鎌ヶ嶽ハ登路峻ノタメ幸ニ濫探ヲ免レ居ルヲ以テ寧ロ之ヲ保護スルヲ可トセン

菰野山植物ニ關スル記錄ノ主ナル者ニ次ノ如キアリ

○伊藤圭介翁

菰野山草扁額（本稿ニ記ス）

○鎌田松石翁

三重本草（手記ニシテ余秘藏ス）

○植松榮次郎著

菰山植物目錄（明治三十七年發行、絶版）

○川崎光次郎著

菰野山植物（明治三十九年發行、絶版）

【四】 扁 額

此扁額ノ形狀ハ神社佛閣等ニ見ル奉納額ノ如ク桐板ニ檜ノ縁ヲ附シタル極メテ簡單ナル者ニシテ此ニ掲グル寫真ノ如

シ、而シテ此額ハ二面アリテ殆ンド同一寸法ナレドモ幅ト板トノ厚サニハタバ僅少ノ差アルヲ見ル何レモ表面全部帶褐黃色ニ媒ビ文字ハ墨書ナレバ凝視シテ辛フジテ讀ミ得ル程度ニ迄古ビタリ

(イ) 扁額 第一面 (長 六尺四分五厘 幅 一尺五寸三分)

第一面ハ安政五年伊藤圭介翁一行ノ採集セラレシ植物名錄ニシテ鼈頭ニ「菰野山采藥品種目」ト題シ採集品ヲ植物和名ノイロハ順ニ五段七十三行ニ記シ通計三百六十五品アリ(内重複セルモノ若干アリ) 其次ニ同行者人名ヲ列記シアリ、而シテ植物名稱ノ内、濁音ノ誤記及ビ假名遣等ニ於テ誤リナラント思ハル、個處アレドモ余淺學菲才ノ身ヲ以テ故翁ノ自書ニ對シ修正ノ筆ヲ加フキベニアラザレバ姑ラク原記載ノ儘ニ手寫セリ、此額ノ表面ハ如何ニシテモ明ニ撮影シ能ハザルヲ遺憾トス

裏面ノ記載ニ依リ推考スルニ安政五年(大正十五年ヲ距ル六十八年前)ニ採集セラレシモノヲ後チ二年ヲ經タル萬延元年ニ翁自ラ手記シ杉屋主人ニ寄與セラレタルモノ、如シ

菰野山採藥品目

イハラシ
イタチアザミ
イハカウジニ
イハゴケ
イハボタン
イハセウブ
イハハノイ
イヌシデ
テリハバイ
ハイドクサ
バイクハワ
ニシカクサ
ホラジン
トラアシケ
升麻

風輪菜

紫背天葵

五加葉黃連

イハザクラ
イナモリサウ
イナデンダ
イトゴケ
イヌダクサ
イヌガバコ
イヌエンジュ
イヌカグサ
ハシカグサ
バイクハワ
ニハフザ
ホラガヒ
トチバ天
南星

萬經草

苦檻

檳榔

蒜薹

胡豆

土園兒

イチヨウラン
イガホ、ツキ
イハキンバイ
イシモチサウ
イハカバミ
イヌシダ
イハガネサウ
イモノキ
ハナビゼキセウ
ハクサンラン
ハナイカダ
ニシキゴロモ
ホ、ヅキ
ベンケイサウ
トンボサウ

茅膏菜

蛇眼草

景天

イノデ
イラク麻
イハボタン
イハガタミ
イナヅマアザミ
イソノキ
バイカウハ
ハクラン
ハタウコン
ニシキゴロモ
ホト、ギス
トンボサウ
大

毛炭

毒麻 對生

毒麻

對生

對生

對生

對生

對生

對生

對生

對生

チクセツノキ	齊墩	土參
ツシヤノキ	星宿菜	
ヌマトラノオ		
オホスミレ		
オキナガヤ		
カモメヅル	白前	一種
カシバウスダ		
カンアフヒ	杜衡	
カマツブシ		
ダイモチサウ		
シソ葉ツナミサウ		
タブリサウ		
タチアフヒ	王孫	一種
タニシデ		
ヨシノシヅカ	獐牙菜	
ツレサギサウ		
ツクバネサウ	王孫	
ネコノメ	貓兒眼睛草	
ナナギリナ	無獨モ	
ナナキンナ	カマド	
ムカシヨモギ	蓬	
ウバヒスサウ		
ウバユリ	薺葉菜	貝母
ウツギ		
ウツギ	渡疏	
ノリノキ	方茎ニ又ニバウツサ	
クモヤナギ	山藤	
クロモヂ		
エビヅル	蓼	
ヤブマラ		
ヤクシサウ	變葉ノモ	
ヤマカタバミ		

伊藤圭介翁遺墨ノ蕨野山草扇額

シナノキ
モミヂガサ
セシボ
ンヤリ
スギナ
葉細キモノ

シヤラ
モウセンゴケ
セリバ
黄連
スミメカサ

シラキカヘデ
モクマンジュ
セシボ
ユガニヒ
スミカセリ

モミヂガサ
ウバカマ
セウ
ラン
ズミノキ

右通計三百六十五品尙多遺漏眼倦筆禿不能詳悉焉

尾張葺百社同遊人名

富永武太夫
伊藤圭介
吉田平九郎
戸田五郎兵衛
石黒道玄
吉田政九郎
丹波修治
大河内構齋
中野鍵太郎
千村五郎
田中東陽
高井壽太郎
神田國次
西山春菴

名兼草號東岡菴 六十四歲

名清民號錦窠又有太古山樵旭岡十二花樓等數號 五十六歲

名高憲字地岳號雀巢菴又養月 五十四歲

名壽昌字孟諤號序園又禪友居 三十六歲

名正康字子直號菜洲又富春堂 三十四歲

名有政號千々園 三十歲

名翰字公憲號管屋又清風北勢川北邸人 三十一歲

名重潤字伯峰 三十三歲

名延年字旭亭號月嶠 畫家 二十六歲

名仲精字百煉號健堂又小木曾山人 二十五歲

名章字士成又芳介 信州飯田人 二十一歲

名智字好士號椿堂又春亭 美濃太田人 十九歲

名朗字子潤號栗谷 十八歲

名尙孝 美濃泳人 十六歲

大河内菊三郎

名重好 十五歳

社外同遊美濃大垣飯沼慾齋尾張平島村瀬厚英

案内者 杉屋喜三郎 五十九歳

安政五年戊午榴夏

錦窠 伊藤清民記

玆ニ遺憾ナルハ右原標品ヲ始メ翁ノ採集標品ハ前記下里氏宅ニ長持二個^①ニ充滿セシヲ永ラク所持セラレシモ保存宜シキヲ得ズ爲メニ大部分蟲喰トナリシヲ以テ先年全部燒棄セラレタル由ナリ誠ニ惜ミテモ餘リアル事ト謂フベシ

扁額ノ裏面ハ寫眞ノ如ク 萬延元年庚申閏三月寄與北勢菰野湯之山杉屋主人 ト記シ、行ヲ更メテ 名

古屋錦窠伊藤清民 トアリ

(口) 扁額 第二面 (長 五尺九寸八分 幅 一尺五寸三分)

前半面ニハ一行採集ノ實況ヲ同行ノ畫家中野鍵太郎(月嶠)氏描寫着彩セリ其寫眞ノ下部ニ白色ノ點ノ散見シテ殘レルハ草花ヲ彩リシ胡粉ナリ、而シテ後半面ニハ圭介翁自筆ノ畫賛アリ、賛ニ曰ク

菰野山采藥

採藥菰山路層峰度巖嵯靈根依石罅異草掛巖阿荷鍾兼携篋披榛又挽蘿探尋已幾日猶恐遺珠多

錦窠 伊藤清民

時安政五年戊午夏五月

トアリ、尙額ノ裏面ニハ採藥狀況ノ説明ヲ記シタルモノアリ、即チ左ノ如シ

此圖中一人以杖捕金蛇者爲雀巢吉田平九郎又有一老翁立於竹輿之側者爲飯沼慾齋白髮之人手把草花者爲東

岡富永武太夫又樹之下踞石傍觀者錦巢伊藤圭介也負簞喫烟者是杉屋主人喜三郎云爾

萬延元年春三月寄與杉屋主人

尾張 錦巢 清民漫記

是レナリ

【五】 結 尾

以上ニテ菰野山及び其扁額ノ説明ヲ終レリ、此扁額ニ列舉シアル植物中ニハ現今ト其名稱ヲ異ニセル者及ビ全然如何ナル者ヲ指シタルヤ判定ニ苦シム者モアリ、尙此他特種植物並ニ分布上注目スベキ種類等多クアレバ余ハ後日稿ヲ更メテ菰山ノ植物ヲ紹介スルノ機ヲ得ン事ヲ期ス

○植 物 雜 記

陸前仙臺 飯 柴 永 吉

數種ノ斑葉植物

植物ノ葉ニ斑入^{フイ}ノ現象アルコトハ古クヨリ知ラレタコトデ今更蛇足ヲ添フルコトヲ要セナ

イガ園藝品トシテハ流行ニ變遷ガアツテ一時數十百金ニ取引キセラレタ物が捨テ、顧ミラレザルニ至ルコトハ決シテ少クナイ、予ハ年來コノ流潮ノ外ニ超然トシテ何ト云フコトナシニ集メタルモノ今ヤ百以上ニ上ツタ、コンナコトハ學術上ニハ何等ノ價值ガナイカモ知ラヌガ園藝品トシテハ多少ノ意味ヲ有スルコトデ集メテ見レバ矢張り面白イモノデアル、少シク注意ヲスレバ庭園ノ中ニモ山野ノ採集ニモ此變リ物ヲ見出スコトガ出來ル今種苗店ノ目錄ナドニ見ユルモノヲ除キ予ガ近年見出シタルモノヲ次ニ列舉シテ見タイト思フ

(一) 斑入小松菜 (*Brassica campestris* L. var. *Komatsuna* MATSUM. ET NAK. forma fol. variegatis.) 予ノ菜園ニ偶然ニ生シタ